



企業規模やステージによって 見るポイントが違う

成長段階の中堅企業

- ✓ 重視すべきは成長性。「売り上げが増えているか」が大事
- ✓ 利益は多い方がいいが、赤字でも有効な投資が行われていた場合は問題なし
- ✓ 十分に現金を確保できているか、在庫や売掛債権が膨らんでいないか確認

成熟した大規模企業

- ✓ 成長性に加え、「質=利益」の伴った成長をしているかが大事
- ✓ 株主還元、成長への投資、内部留保がバランスよく等分に行われているのが理想。ROE、EPS、配当性向は高い方が好ましい
- ✓ 営業利益を安定的に上げているかも重要。セグメント情報を見て、稼ぎ頭の分野に特に注目

ことだが、決算書は「経営者の主張」という目線で見るよう心掛けたい。

決算の数字を打ち出すには見積もりや将来予測に頼る部分が多く、企業経営の実務では、「決算短信に書かれる業績予想を達成するため、経営者の主張に向けて役員が一丸となって努力すべきもの」と植松さんは捉えている。

こうした意味合いから、業績予想を頻繁に下方修正したり、当初予想から大きく下方乖離したりするような企業は「マネジメントに

問題があるかも」と厳しい目で評価してみることも大事なことだという。

下に示したのは決算書の損益計算書の項目に出てくる5つの利益の関係だ。青いバーの部分は売上高や利益から差し引かれるコストや損失分、税金を示す。

企業の成長力を読み取る売上高、本業での利益を表す営業利益が大事なのは既に述べた通り。これ以外の関係性もざっと押さえつつ、決算書の読みこなしにトライしてみよう。



決算書に出てくる5つの利益の関係

